

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

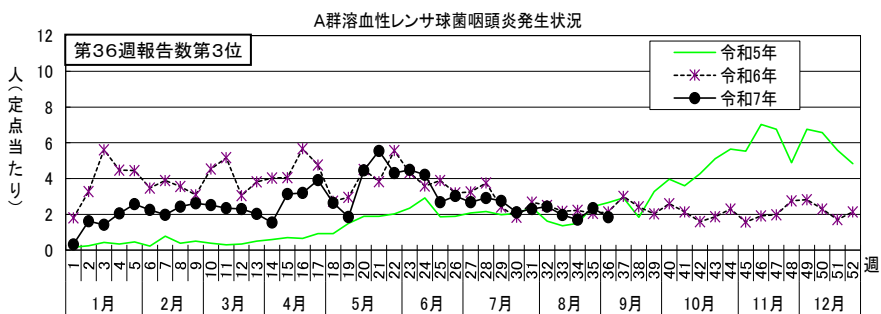
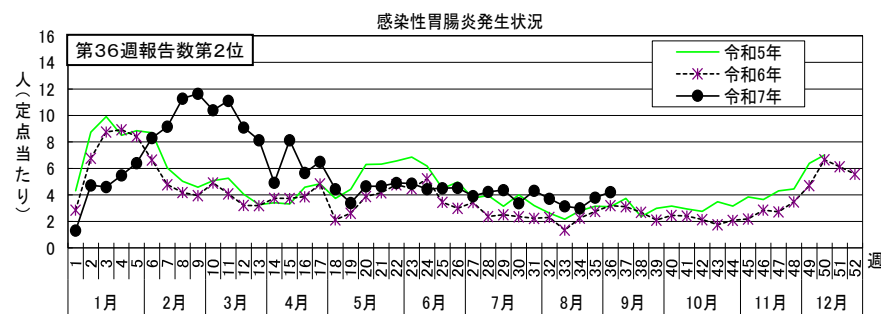
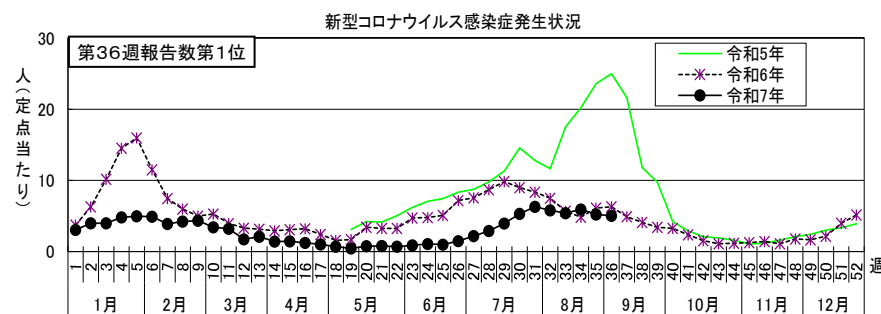
令和7年9月1日（月）～令和7年9月7日（日）〔令和7年第36週〕の感染症発生状況

第36週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）新型コロナウイルス感染症 2）感染性胃腸炎 3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.02人と前週（5.20人）から横ばいでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.22人と前週（3.80人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は1.84人と前週（2.34人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症に気を付けて！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。川崎市では8月末から集団発生がみられており、令和7年第36週（9月1日～7日）はその患者も含めて31件の報告がありました。

原因となる大腸菌は牛等が腸管内に保菌しているため、肉類の喫食には注意が必要です。感染を防ぐためには、食材をよく加熱（中心部の温度75℃で1分以上）し、生肉や加熱不十分な肉類は食べないことが重要です。肉類だけでなく、菌に污染された野菜を食べることで感染する場合がありますので、野菜は流水でよく洗ってから食べましょう。

また、污染された食品の摂取による感染だけでなく、患者の便等を介した二次感染もみられます。排便後やおむつ交換の後には手洗いや手指消毒を徹底し、二次感染を防ぎましょう。

二次感染を防ぐためのポイント

【手洗い】

- ・トイレの後や便の処理後、食事の前等には必ず石けんと流水で手を洗う。

【便の処理】

- ・便を処理する際は使い捨てビニール手袋等を使う。
- ・おむつ交換は決められた場所で行う。

【消毒】

- ・トイレ等の污染された可能性のある場所は、アルコール等で消毒する。
- ・便で汚れた衣類は、熱湯や塩素系消毒剤に浸して消毒後、他の衣類とは別に洗濯する。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症
累積報告数の推移-令和7年と過去5年間の比較-

